

シンガポール・九州ビジネスフォーラム開催 ～九州とアセアンとの新たな可能性の構築～

シンガポール事務所

九州とシンガポールの新たなビジネス連携に向け、九州経済連合会とシンガポールビジネス連盟は、経済交流に関する覚書（以下、MOU）を7月19日シンガポールで締結しました。また同日、現地企業を対象（現地企業約150名参加）に九州への投資を呼びかける九州ビジネスフォーラムも開催されましたので併せて報告します。

■MOU 締結の目的

九州とシンガポールの結びつきは、1971年高田工業所がシンガポールに設立して以来、現在35社が拠点を置き活動を行っています。また鹿児島県は30年以上交流を継続し市民レベルでの結び付きも強く、さらに今年、シンガポール航空が福岡に就航し25周年を迎え、これまでの週5便から毎日1便を就航するなどますます交流が盛んになっています。

このような状況の中、九州・山口地域に事業所を有する法人企業等約940社を会員とする地域の総合経済団体である九州経済連合会（以下、九経連）と、シンガポールの商工会議所の最上位組織で、1万8400社を会員企業に持つシンガポールビジネス連盟（以下、SBF）が、両地域間のビジネス拡大を目指し、MOUの締結を行いました。ビジネス連携強化に向け、その意気込みと期待を両会長は以下のように述べました。



MOU 締結式

九経連の麻生会長は、「日本市場の拡大には政府の努力だけでは難しく、企業の積極的な取組みが重要である。MOUの締結により、相互間でビジネス連携を促進することで、製造業・サービス業の多様化や国際化に寄与し、民間企業の課題として日本市場の改善に積極的に取り組む」と決意を表しました。またSBFのチュウ・リョンチー会長は、「九州は日本におけるアジアへのゲートウェイ、シンガポールは東南アジアのゲートウェイであり多くの共通点がある。シンガポールからの投資はこれまで本州中心であったが、九州への投資の動きも出始めている。特に、クリーンエネルギーの分野に注目が集まっており、九州の企業との知識共有や技術連携に取り組んでいきたい」と発言がありました。

来賓として列席された在シンガポール日本大使館 鈴木大使は、「SBFと日本の経済団体との初めてのMOU締結であり、政府として日本経済の回復・拡大に努め、民間分野の飛躍を期待したい」と述べられました。同じく来賓の対外投資を担当するシンガポール国際企業庁のライ副長官から、九州の太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーや温泉を中心とする観光産業への投資について意欲的な発言もありました。

■九州の魅力をアピール

調印後、九州の投資環境についてセミナーが行われましたが、セミナーを開始するまでの時間が活用され、九州各県の魅力を参加者にアピールするためブースが設置されました。

ブースでは自治体国際化協会シンガポール事務所職員を中心に、パンフレットの配布と参加者からの九州への投資の機会を探ろうと、積極的に質問をする光景が多くみられました。

その後セミナーでは、シンガポール企業として九州に進出している Boustead Singapore 社から、九州で取り組んでいる太陽光発電事業の進捗状況についてビジネス連携事例の紹介がありました。また日本側から、JETRO シンガポールから日本の投資環境とそのメリットについて、九州経済産業局と九州観光推進機構から九州の投資・ビジネス環境及び観光地としての魅力についてそれぞれ紹介が行われました。



九州各県の情報を熱心に聞く参加者

■ビジネス連携の可能性

今回のフォーラムは、アベノミクス効果により世界から注目を集める日本市場について、シンガポール側は日本の地方に魅力を感じていることがよく理解できました。特に、再生エネルギー分野や九州の保有する温泉を中心とした外国人観光客の誘客に関して、日本の地方とのビジネス連携を模索する動きが見られます。セミナー内で報告がありましたが、今年 10 月には、SBF から投資訪問団の派遣について提案があるとのことでした。

こうした動きを重ね、シンガポール側にも日本の地方におけるビジネス環境や習慣等の理解を深めてもらい、日本の各地域との連携による新しいビジネス展開が具体的に起こってくることを切に願っています。自治体国際化協会も今後、様々な形でこの動きを支援させていただきたいと考えています。

(シンガポール・九州ビジネスフォーラム聴取等)

(則松所長補佐 北九州市派遣)

(田中所長補佐 長崎市派遣)

(吉本所長補佐 鹿児島県派遣)

(宇佐所長補佐 宮崎県派遣)